

教育工学

# わかる授業にせまる教育機器の活用

—その1, OHPの基礎的な取り扱い—

経営研究部 田母神 淳

## 1. はじめに

「わかる授業」ということが言われはじめて、すでに久しく、子供たちが自ら、主体的に授業に参加していけるようにするために、教師は常にいろいろと創意工夫をこらして授業改善に努力している。

ところで、「わかる授業」を行うことができるということは、教師にとっては、いわば基礎的基本的な技術を身につけていくということではないだろうか。教育方法が合理的になり、かつ指導技術も多彩になってきている現代の教育の中で、特に教育機器を利用できる技術と能力を身につけていることは、これからの授業改善と充実に対して極めて重要なことであると思われる。そこで、これから教育機器を利用していこうとする先生方を対象に、今回は教育機器の活用にあたって基本的におさえておかなければならないことをOHP中心に述べてみたい。

## 2. 効果的なOHP投映環境づくりから

現在、各学校には実にさまざまな教育機器が導入されているが、中でもOHPの普及率は群を抜いている。しかし、その利用となると、必ずしもOHPの持つ教育的な特性や機能を十分に生かしているとは言えない。たとえば、せっかく教室にOHPを持ち込んでも画面がゆがんだ状態で使用したのでは、その効果は半減してしまうことになる。

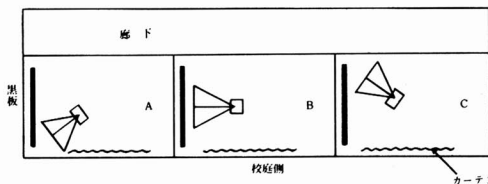
まず、OHPを使用する教室の環境づくりから考えていきたいと思う。

### (1). 教室内のOHPの配置

OHPを教室のどこに配置すれば最も使いやすいかを定める条件として次のようなことが考えられる。

- ① 映像が明るく写るように、できるだけ暗い場所をえらぶ。
  - ② すべての学習者からよく見える場所におく。
  - ③ 板書のことも考えて、黒板も使用できるようにする。
  - ④ 教師が働きやすく、操作しやすい場所に。
- 普通、学校の教室は図Iのような配置が多いので、

これらの条件にあった場所の設置を十分に検討していききたいものである。



(図I)

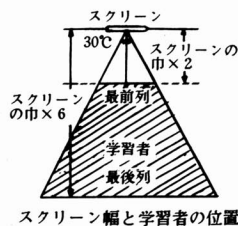
### (2) スクリーン

教室内に専用スクリーンを固定している学校が多くなっているが、移動式で使用する場合であるなら1.5m~1.8m四方ぐらいのホワイトスクリーンが適している。固定スクリーンでもOHPの光軸に対して直角になるように傾斜できるようになっていることが必要である。また、スクリーンがあまり高すぎて、学習者が見にくく、つかれるような位置だけはさけたいものである。スクリーンの最適な高さは、OHP本体のヘッド部や教師の身体がじゃまにならないこと、前例の学習者の仰角が大きすぎないことである。大体スクリーンの下端の高さが、小学生で120cm、中学生で130cm程度になるようにするのがよいようである。

### (3) OHPの位置と高さ

OHPを置く台は車をつけて移動できるようにして、ランプを保護するためにも、できるだけ振動を与えないようにする。OHPのステージ面の長さが80cm程度になるように台の高さも工夫したいものである。

教室がせまいと、いきおいOHPを置く場所も学習者の机と机の間に割り込むようになってしまいが最近焦点距離の短いのも市販されているので、良く教室の状況等のみて購入するように計画したい。スクリーンと学習者の位置である



スクリーン幅と学習者の位置

(図II)